

図書館講演会 開催報告 令和7年9月15日(月・祝)

## 「府中の土壌について ～台地の土壌と低地の土壌～」

農学博士で東京農工大学農学部准教授の田中治夫先生をお招きし、「府中の土壌～台地の土壌と低地の土壌～」というテーマでご講演いただきました。



田中先生は、2024年に編纂された「新府中市史 自然編」の府中市の土壌について、ご執筆されており、非常に深い知見をお持ちで、府中市の土壌の成り立ちや構成物質、府中崖線の北と南でどのように土壌が異なっているかなどのご講演をいただきました。

ご講演は、府中の坂の由来碑の話からはじまりました。府中市に残る「坂」の由来碑はその多くが府中崖線上にある坂についてのものが多いとのことで、土壌については、府中崖線の南北で違いがあり、北部は「多腐植質黒ぼく土」となっているのに対して、南部では「灰色低地土」「礫質灰色低地土」となっていて、土の色や構成要素が異なっているとのことです。「多腐植質黒ぼく土」は富士山の火山灰からできた土壌となりますが、府中崖線より南側については、多摩川の浸食により、火

山灰が流されて、多摩川の洪水でもたらされた土砂からできた「灰色低地土」となり、川に近い場所では、「礫質灰色低地土」となっているとのことでした。

講演後半では、土・砂・粘土の定義が粒の大きさによることや、土壌の中にいる生物・微生物や有機物の働きについての内容から、土壌には持続可能な働きがあり、食料の供給や水質の改善など「持続可能な開発(成長・発展)目標(SDGs)」につながるものであるとのことのお話がありました。参加者の方々も、府中の土壌がどのように生成されているのか、また土壌の中に非常に多くの微生物がいること、土壌がSDGsにつながることに驚かれながら、熱心に聴講されているようでした。



2時間のご講演でしたが、パワーポイントを用いて、たくさんの写真や図表などを見ながらのご講義で非常にわかりやすく、あっという間の2時間となりました。

参加された方からも「難しい内容がわかりやすく説明されていた」「府中の土についてよくわかった」「資料が豊富にあってカラーでわかりやすかった」などのお声を頂戴しました。

府中市立図書館では、10月19日までの期間で「土壌の本」についての特集展示を行っています。ぜひご覧ください。